



輸入食品からみえる環境



郡司和夫さん
(フリージャーナリスト)



食生活を見つめなおすひとつのきっかけになれば・・・との思いから、食と環境講座「輸入食品からみえる環境」を次のとおり開催しました。

日時	4月22日(火)午後1時～4時
会場	環境情報センター
参加者	25人
内容	郡司和夫さん(フリージャーナリスト)のお話し 「輸入食品の現状」 大村美香さん(朝日新聞記者)のお話し 「日本の農業と環境」 郡司さんと大村さんの対談 「わたしたちの食生活と環境のかかわり」

郡司和夫さんのお話 「輸入食品の現状」

- ・ 輸入を確保するために、抗生物質や防腐剤などを食品添加物として認めてしまっている。いずれ輸入食品が健康に影響を及ぼすことになる。
 - ・ 食に対する衛生面や安全面などでの感覚の違いがあるにもかかわらず、実態を知らずに食を海外に依存したツケが今、回ってきている。
- など、郡司さんが今まで調べてきて感じたことや最新情報など、輸入食品についてお話しいただきました。



大村美香さん(朝日新聞記者)

大村美香さんのお話

「日本の農業と環境」

- ・ 私たちの食生活は、40年前と比べると畜産物と油脂が増え、米が大きく減少した。
 - ・ 農村では農家の半数が高齢者であり、フルに働けず、田畑が減少している。
 - ・ コウノトリ育む農法などユニークな方法で取り組み、農産物のブランド化などに成功している市もある。
- など、大村さんご自身が取材してきたことなどを、事例をあげながらお話しいただきました。

郡司さんと大村さんの対談の様子
(中央はコーディネーターの古澤めいさん)



郡司さんと大村さんの対談 「わたしたちの食生活と環境のかかわり」

- ・ 食を輸入するということは、その生産国から、土地・水資源、労働力を輸入していることと同じ。
- ・ 原油高が続けば、中国産のものも安いままではないので、国産を選ぶようになるのでは。高いものを買いたくなければ、今から農業を始めるのもひとつの方法。
- ・ 何のために私たちは食べるのか考えよう。健康維持のためならば、環境もよくしないといけない。
- ・ 農業の衰退が問題になっているが、農業への株式会社の参入は難しい。企業は儲かっているところへ参入し競争をするので、末端のケアにはならない。
- ・ 20代、30代を中心に、自分が食べる分ぐらいの農業をしつつ経済収入は他から得る「半農半X(イクス)」が注目されている。

など、食生活と環境についていろいろな視点から話していただきました。参加者のさまざまな経験からでる質問にさらに話は広がりました。

対談の最後に、お二人に食べる人(消費者)としてのアイデアを伺うと、「外食が多い人は早死率が高いとの統計結果があります。どこでどんなふうに住られたものか自分で判断できるものを食べましょう」とおっしゃっていました。



熱心に話しに耳を傾ける参加者のみなさん